

349その他の炉、窯等を起因物とする死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発 生 時	死傷災害事例	年 齢	事 故 の 型	小業種	労働 者規 模
1	2016	12	9 ～ 10	昼食の準備にスチームコンベクションを使用中、通常扉を開けると庫内の熱風は右側へ流れるところ、庫内の循環する強制対流の影響か、急に熱風が左側へ流れて来た。顔をやけどしてはいけな いと左手でかばった際、左手二の腕に熱傷を負った。	47	11	80209	10～ 29
2	2016	10	15 ～ 16	調理食品ライン前処理工程にて、ボイル作業終了後2重釜に水を 張り、洗剤を投入し蒸気バルブ開の作業を行った。その後、沸騰 状態となったため蒸気バルブを閉めるが、2～3分経過しても沸 騰状態が解消されないため、再度蒸気バルブを確認したところ、 洗剤水が突沸し身体にかかって被災した。	25	11	10103	100～ 299
3	2016	7	8 ～ 9	見本染色場にて染色工程のうちリーピングを90℃×15分行い終 了ブザーが鳴りフタを開けようとした時、本来ならバルブを開 き、中の圧を抜いて圧力計のゼロを確認し、さらにもう一つの圧 抜き兼ロックを解除して、フタを開けるが、今回圧が抜けきった 事を確認せず無理に開けたため熱湯が吹き出し、人体にかかっ た。	42	11	10204	10～ 29
4	2016	6	12 ～ 13	工場内で遠心分離機内部を洗浄しようと上蓋を右手で持ち上げ、 左手で上蓋の裏を押し上げたところ、バランスを崩し足を滑ら せ、その反動で右手が上蓋から離れ左腕を分離機蓋とケーシング に挟み負傷した。	34	7	10801	50～ 99
5	2016	4	14 ～	工場内焼成室で、玉子焼連続焼成中に左手で布巾を持ち釜のコゲ を拭き取る際に、動いている釜と釜の反転装置のアームに、布巾	53	7	10109	30～

			15	ごと指を引き込まれて、左手中指の第一関節を挟んでしまい抜けなくなり圧迫と火傷をした。					49
6	2016	4	14 ～ 15	製造工場内アイスコーン製造機において、コーンを作るミックスが桶内で少量になったため新しいミックスに変える際、となりの機械との間がせまい為、桶を持っていた手が機械にぶつかり手の甲の皮がむけ、火傷した。	26	11	10104		10～ 29
7	2016	1	4 ～ 5	工場内のミネラルヤードで高炉鍋ガラ落とし作業中、高炉鍋が2鍋入線した。鍋を設置する場所についてディーゼル運転手との意思疎通がうまくいかず、鍋傾転小屋内で押し合った際にバランスを崩し、パイプ椅子に右脇腹を打ち、負傷した。	45	6	11001		300～ 499
8	2015	10	12 ～ 13	事業所内炉で鉛槽の中、誤って右足を鉛槽にはまってしまい、火傷を負った。	62	11	11209		30～ 49
9	2015	9	8 ～ 9	工場内にて、黒糖の溶解作業中、重さ約30キロの黒糖をお湯（70℃）の入った溶解タンクへ投げ込もうとしたところバランスを崩し溶解タンクの中へ転落した。その際、お湯が長靴の中に入り負傷した。	31	11	10105		30～ 49
10	2015	9	11 ～ 12	ゴミの焼却作業中、焼却炉のゴミを炉に押し入れる機械（プッシャー）がゴミを押し入れて戻ってくる時にゴミがプッシャーの角にひっかかっている事が気になりそのゴミを取ろうとしてプッシャーと壁のすき間に右手首上の外側部分が挟まれてしまい負傷した。	67	7	150102		1～9
11	2015	7	18 ～ 19	店内更衣室において、制服を取ろうとしたら棚の上に置いてあったポットが落ちて来て、頭部と首を打ってむち打ちになった。	59	4	140201		10～ 29
12	2015	7	8 ～	フロア内で利用者のお茶の準備の為、テーブルの上のポットにやかんから湯を注ぎ、その後厨房側のテーブルにやかんを戻そうと数歩歩いたところで、濡れた床に足を滑らせ、やかんを持ったま	27	11	130201		30～

			9	ま尻もちをつく形で転倒。やかんに残っていた熱湯が顔・両腕・脇腹にかかり、熱傷した。					49
13	2015	6	13 ～ 14	炉内の予熱のため、予熱用バーナーへ点火していたところ、逆火が発生し、バーナー点火口付近にいた被災者はその火炎を浴び、顔面に火傷を負った。	38	16	11101		50～ 99
14	2015	4	19 ～ 20	厨房の調理場にて、フライヤーの後片付けをするため、揚げかすをすくう網を使用していたところ、軍手をはめて作業をしていたため感覚がつかめず、フライヤーに残っていた油の量も多かったため、油の中に指が入ってしまい右手人差し指と中指を火傷してしまった。	20	11	80209		10～ 29
15	2015	3	8 ～ 9	ドラム缶でゴミを片付け作業中、突然炎が上がり、顔面を火傷負傷した。	36	11	11209		1～9
16	2015	2	13 ～ 14	ジェットオーブンにて穴子焼成の投入作業を行っていた際、洗浄済み鉄板を取りにジェットオーブン横を通行した際に、ジェットオーブン横にある開閉部が本体への固定部分ごと外れ落下し、胸部に接触した。	39	6	10109		300～ 499
17	2014	12	20 ～ 21	レストラン店舗内キッチンにて、茹麺機の蓋をしない状態で、茹麺機上のキッチン内を清掃中、誤って左足を入れてしまい火傷した。	23	11	140201		10000 ～
18	2014	11	11 ～ 12	相談所厨房内で昼食の準備をしている時、通常使用している炊飯器の調子が悪く炊飯できていなかったため、別の2升炊き炊飯器で炊き直し混ぜようとした時、左手に蒸気がかかり、さらに開いた炊飯器の蓋を押し開けてしまい、右肩に激痛が走り右手右肩が動かなくなった。	65	19	80209		1～9
19	2014	11	6 ～	事業所内厨房回転釜の前でお茶をやかんにうつし、回転釜の残りのお茶を捨てる時に足をすべらせてしまい、左足甲の左側に火傷	25	11	80209		10～ 29

			7	をした。				
20	2014	10	9 ～ 10	店内でコーヒー作成中に機械の熱湯とコーヒーの粉が手の甲にかかった。	27	11	80201	10～ 29
21	2014	9	7 ～ 8	店舗内厨房において炊飯台周りの拭き掃除をしていたところ、誤って右手が炊飯中で高温になっていた炊飯釜に触れてしまい右肘下から手首の間に火傷を負った。	62	11	80209	10～ 29
22	2014	9	15 ～ 16	小学校家庭科室にて児童が作ったジュースに入れる水を作るため、ヤカンで沸騰させたお湯を冷まそうと流しに移動させていた時、誤って右手の甲、指手首にかけてしまい火傷を負った。	63	11	120109	1～9
23	2014	6	11 ～ 12	焼却炉の扉の下に足を置いて、扉の噛み込みを直そうとした際に、右足に扉が落下した。	54	4	10805	50～ 99
24	2013	12	10 ～ 11	厨房の回転釜にて、肉団子（パック）をボイル終了後、回転釜の火を消すため、ガス開閉コックを締めた際、コックが経年劣化により抜け、コックの部分から火が出て顔面に火傷を負った。	58	11	170209	10～ 29
25	2013	9	22 ～ 23	溶鋼を分岐する装置（タンディッシュ）を初回使用する場合、予熱して使用するが、予熱完了したダンディッシュ内に異物があったため、その蓋の上で開孔部より専用治具にて除去作業をしていたところ、足場後方にある別の開孔部（蓋あり）と蓋のすき間から出ていた熱風で、ズボンの裏側が燃え、負傷した。	22	11	11001	50～ 99
26	2013	7	16 ～ 17	加熱室にて、ジェットオープンでの焼成終了後の鉄板洗い作業中、通常の手袋を装着していた為、手に熱傷を負った。	51	11	10109	100～ 299
27	2012	9	4 ～ 5	岡ピット上にて、残湯量確認の棒を鍋につっこみ、残湯を確認する作業をしていたところ、作業姿勢が悪く、熱気が手と顔面、鍋が手に当たり、熱傷した。	23	11	11009	50～ 99

36	2011	6	12 ～ 13	フライヤー（店舗用揚げ物調理器具）の清掃作業中、食用油の温度を（約180℃）下げるため電源を切り油に浸った加熱棒を取り上げようと操作用レバーを掴み、上方へ持ち上げていたところ、慎重さに欠け、勢いよく持ち上げたため、落下防止ロックがかかる前に手がすべり、加熱棒が勢いよく油に落下し跳ね上がった油によって顔や手などを負傷した。	18	11	80209	10～ 29
37	2011	6	8 ～ 9	調理場において、回転釜の蓋を開ける際、蒸気の勢いが強い事の注意を怠り、手を火傷した。	22	11	130201	100～ 299
38	2010	10	10 ～ 11	焼却炉の運転を開始する為に、着火用の助燃物を入れ種火を投入した。その後炉内温度が上がらないことから失火と判断し、再度種火を投入したところ、急激な燃焼が起こり、顔面に火傷を負った。焼却物は紙、及び木材	60	11	10809	300～ 499
39	2010	10	13 ～ 14	キッチンにて、ライスの交換作業の際、加熱中の炊飯器に誤って触れてしまい左手全体に火傷を負い水膨れになった。当日は応急処置をし、翌10/4に受診。	19	11	140201	30～ 49
40	2010	8	9 ～ 10	（株）AのB店の厨房において、Cがラーメン釜に向って作業をしていたところ、その背後にある50リットル入りの熱いスープのはいった寸胴が突然倒れて、両足の、くるぶしから下に大火傷を負った。なぜ寸胴が倒れてきたのかは不明。	21	11	140201	30～ 49
41	2010	5	16 ～ 17	調理室の回転大鍋で作られた清汁を、横付けした移動式調理台の上の3つの鍋に移してあった。そこへ横の棚にある調理器具を取りに来た当事者に手前の鍋がひっくり返り、はね返った清汁が左足にかかり熱傷を負った。調理台の周囲も鍋底も丸みがあり、不安定であった。当事者は「鍋や調理台に当たったり、接触した記憶はない」と話す。又、現場で見ていた他のスタッフも居ない。流水で冷やした後土曜午後だった為近隣の総合病院の救急外来にて応急処置をしてもらい後日専門皮膚科受診し、全治2ヶ月と言わ	49	11	130101	100～ 299

				れた。				
42	2010	3	15 ～ 16	3月5日午後3時15分頃 焼却炉に火がついていない（くすぶっていた）ようだったのでフタを開けてライターを右手で点火した。ボンと爆発し火がついた。顔、右手にやけどした。焼却物は、書類等の紙、現場で発生する木くず等	63	11	30202	1～9
43	2009	12	13 ～ 14	厨房において注文の商品を順番に調理中に、フライヤーに入れたカキ揚げを取りに行こうとして足を滑らせ、フライヤーの中に右手をついてしまい、火傷を負った。	27	11	140201	10～ 29
44	2009	9	14 ～ 15	公共下水道の補修工事中、加熱養生が終了し冷却に移ろうとした際、ノッチタンク内の温水ポンプが停止したため、別の方法での冷却に段取り替えをしている最中に、ポンプが突然作動し始め、温度80℃の熱湯が下半身にかかり火傷を負った。	27	11	30106	100～ 299
45	2009	8	16 ～ 17	病院の厨房において、油釜で揚げ物（クリームコロッケ）の調理中、クリームコロッケ90個（180個中）位を揚げた時、左手に温度計、右手に網を持って、クリームコロッケの温度を測ろうとしたところ、足が滑って左手が油釜の中に入って火傷を負った。	55	11	130101	100～ 299
46	2009	7	14 ～ 15	工場での作業終了後、洗い場でエプロンと長靴を洗浄する際、洗浄用の湯（約80℃）をバケツで汲み、着用したままエプロンに流し掛けた時、右の長靴に湯が入り、火傷した。	29	11	10101	10～ 29
47	2009	7	12 ～ 13	食品製造工場において、蒸気釜を熱湯で殺菌し、清掃作業をしていた。その際、熱湯が膝にかかって火傷を負った。	50	11	10109	10～ 29
48	2009	6	10 ～ 11	店舗において、フライヤーの油交換作業をしていた時、熱せられた油が手にかかって、火傷を負った。	17	11	140201	30～ 49
			0	飲食店のバックルームにおいて、炊飯器の蓋を持ち、ご飯を移す				10～

49	2009	4	1	～	際に、腰に痛みが入り、歩行が困難になった。	59	19	140201	29
50	2009	2	9	～	合成釜（反応器）で仕込作業中、トルエンの中にペレット状の原料を投入中、静電気により着火。ガット口より火柱が上がり、顔と首に火傷を負った。	41	14	10805	50～ 99
51	2008	10	8	～	店舗内調理場において、コンロのガスホールが外れ、ガスが充満していることに気付かず、ガス台ドンプラーに火を着火した際、ホースに引火して爆発し、左腕と両足膝から足首にかけて火傷した。	32	11	140201	30～ 49
52	2008	9	11	～	ご飯の釜（約10kg）を定位置に持って行くため抱えていた時、足が躓き、そのまま前のめりに走り出て、ステンレスの置き台と釜で左手を挟んだ。	59	2	10109	50～ 99
53	2008	7	8	～	焼却炉で、灰出し作業を行っていた際、熱い炉床の中で作業を続けたため、両足を負傷した。	43	11	150102	50～ 99
54	2008	6	15	～	焼却炉の上でガスの切断作業中、左足を滑らせ転落した。	64	1	150103	10～ 29
55	2008	6	11	～	豆煮釜の底板を落とし棒で引っ張り上げた時、体のバランスを崩した。体勢が崩れたまま再度引っ張り上げた為、腰を負傷した。	41	19	10109	1～9
56	2008	4	11	～	当店地下1階鮮魚の調理場に於いて、魚を焼く為にガスコンロの中に魚を入れていた時、他の考え事をしながら作業をしていて上の空だった。傍らの従業員から声を掛けられて咄嗟に手をコンロから出したが間に合わず、指の指から手にかけて負傷した。	38	11	80201	100～ 299
			23		在荷スイッチが作動しなかった為、手動運転にて異常処理を行った。自動運転にて取出し動作をさせた状態で機上に乗る、手で在				500～

57	2008	3	24	～	荷スイッチを作動させ在荷信号を解除しようとした。その時にクレーンのアームリフト下に足を入れていたため、アームリフトが下降し、右足を挟み受傷した。	57	7	11109	999
58	2007	12	10	～	11	40	11	140201	10～ 29
59	2007	12	17	～	18	57	11	10409	100～ 299
60	2007	10	11	～	12	32	11	11001	1000 ～ 9999
61	2007	6	9	～	10	73	3	10103	10～ 29
62	2007	5	10	～	11	45	11	80201	300～ 499
63	2007	3	7	～	8	42	4	170201	50～ 99
64	2006	12	11	～	12	40	11	140201	10～ 29

				した。				
65	2006	11	18 ～ 19	敷地内にあるごみ焼却炉で、ゴミを焼却しようとしたが、燃えなかったのでシンナーを入れたところ、一気に炎が出て負傷した。	30	11	11301	10～ 29
66	2006	10	13 ～ 14	バグフィルター入口ダクト内部にて、ダクト内部のダスト搬出作業中、被災者はダンパー羽根の下で降りてきたダンパー羽根で頭をはじかれた。その際、後に倒れ両足をダンパー羽根に挟まれた。	67	6	30309	30～ 49
67	2006	9	8 ～ 9	工場内で乾燥装置予熱の為の着火時に、プロパンガスのドラムドライヤーに着火のタイミングが遅れてガスが充満し、バックファイヤーにより燃焼ガス炎が作業者本人にもどってきてやけどを負った。	57	11	10809	30～ 49
68	2006	9	10 ～ 11	調理作業中、沸騰しただし汁を計量しながら、別の鍋に移し替えていた時に、こぼしたため負傷した。	41	11	130201	10～ 29
69	2006	3	17 ～ 18	焼却炉前で点検作業を行う際、焼却の火が弱かったので、灯油をかけて焼却炉の確認扉を閉めようとした所、爆発音とともに火が大きくなり、被災した。	29	11	150102	1～9
70	2006	2	21 ～ 22	化学工場において、3-4炉で予熱運転を開始した後、3-4炉冷却塔への通水バルブの開け忘れに気が付き、バルブを開けたところ、そのとたん冷却塔から熱湯が噴き出し、体にかかり負傷した。	26	11	10801	100～ 299

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各起因物における死傷災害100事例 \(-2017年\)](#)に戻る。